

【サイエンスダイアログ】

5月26日（月）、東北大学からインドネシア人の研究者であるHendris先生をお招きして、理数科2年生が英語の講義を受けました。講義の内容は「タウオパチー」と呼ばれる疾患に関する研究でした。

「タウオパチー」とは、脳神経細胞内の構造を支えているタウタンパク質という物質が絡まることで引き起こされる疾患で、認知症やアルツハイマー病を引き起こす要因となっています。講師の方は、これを治療するために、放射性医薬品による治療方法を研究されているそうです。

今回、本格的な研究を英語のプレゼンで聞くことで、実践的な英語表現と科学用語を学ぶ機会になりました。2年生は来年英語発表会がありますので、今回はとても良いお手本になったのではないのでしょうか。

